








インフォメーション・コーナー

会 告

○平成 28 年度農業農村工学会大会講演会の講演申込みについて  WEB 投稿締切 4 月 22 日	90
○平成 28 年度大会講演会における「企画セッション」の募集について 企画募集締切 2 月 12 日	92
○平成 28 年度大会講演会における「スチューデントセッション」の講演申込みについて WEB 投稿締切 4 月 22 日	93
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	94
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!	94
○平成 29 年の表紙写真の募集 秋季～冬季締切 3 月 31 日	94
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	95
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い	96
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2015 年 1 月から 2017 年 12 月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ	96
○平成 27 年度関東支部技術研修シンポジウムの開催について  参加申込締切 2 月 8 日	97
○平成 27 年度京都支部地方講習会・研修会の開催について（第 2 報）  参加申込締切 1 月 29 日	98
○農業農村整備政策研究部会第 3 回研究集会の開催と発表者の募集について（第 2 報）  1 月 25 日開催	98
○第 53 回材料施工研究部会シンポジウムの開催について（第 2 報）  1 月 29 日開催	99
○平成 27 年度農業水利研究部会研究集会の開催について（第 2 報）  2 月 6 日開催	99
○平成 28 年度資源循環研究部会研究発表会の発表者募集について  発表申込締切 2 月 19 日	100
○国際かんがい排水委員会（ICID）第 2 回世界かんがいフォーラムにおける発表論文の募集について 要旨提出締切 2 月 15 日	100
○第 2 回理論応用力学シンポジウムの開催について 3 月 8 日開催	101
農業農村工学会論文集内容紹介	103
学会記事	104

第 84 巻第 2 号予定

展望：成岡 市

報文：①水域の底質から放出されるガンマ線の簡易な計測システム：吉永育生ほか

②青森県のため池堤体に関する安定性評価：森 洋

③中山間地域の空き施設の里山子育てひろばとしての再生方法：坂田寧代ほか

④岩手県における狩猟活動の現状と今後の継続に向けての考察：原科幸爾ほか

⑤庄川・黒部川・手取川扇状地における水循環とトミヨ生息域：早瀬吉雄ほか

⑥最上川土地改良区における賦課金未収の現状と対策：元杉昭男ほか

リポート：メコン河委員会の農業・灌漑プログラム 北村浩二

技術リポート

北海道支部：鋼製ゲートにおける耐久性塗装工法の検証：稲本 晃ほか

東北支部：農地海岸保全施設の災害復旧に係る地盤改良の施工事例：佐藤公俊ほか

関東支部：既存舗装コンクリートを有効利用した農道改修のコスト縮減事例：太田純治ほか

京都支部：灌漑用鋼製配水槽のジャッキアップ工法による保全対策：前岡直樹ほか

中国四国支部：ALW 形ダクタイル鋳鉄管を用いたパイプライン施工事例：岡本貴也ほか

九州沖縄支部：既設排水機場を利用したポンプ更新計画：岩元 浩ほか

私のビジョン：藤山 宗

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成28年1月20日	北海道支部	平成27年度支部講習会	Ⓟ 寒冷地における農業施設の耐震設計と機能保全	札幌市	83巻12号
平成28年1月25日	農業農村整備政策研究部会	第3回研究集会	Ⓟ —	東京都	83巻11号 84巻1号
平成28年1月29日	材料施工研究部会	第53回シンポジウム	Ⓟ 農業水利施設の維持管理における非破壊検査の現状と課題	津市	83巻12号 84巻1号
平成28年2月6日	農業水利研究部会	平成27年度研究集会	Ⓟ 農業用水の受給構造の変化に対応した適正水管理システムの構築	東京都	83巻12号 84巻1号
平成28年2月10日	京都支部	平成27年度地方講習会・研修会	Ⓟ —	金沢市	83巻12号 84巻1号
平成28年2月22日	関東支部	平成27年度技術研修シンポジウム	Ⓟ 地下水制御システムの機能と活用	宇都宮市	84巻1号
平成28年6月16日	資源循環研究部会	平成28年度研究発表会	Ⓟ 水循環・バイオマス利活用に係る研究発表および事例報告	東京都	84巻1号
平成28年8月30日～9月2日	大会運営委員会	平成28年度農業農村工学会大会講演会	Ⓟ —	仙台市	83巻12号 84巻1号

平成28年度農業農村工学会大会講演会の講演申込みについて

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



平成28年度農業農村工学会大会講演会は、ホテル法華クラブ仙台およびハネル仙台において平成28年8月30日(火)、31日(水)、9月1日(木)の3日間および現地研修会を2日(金)に開催します。

この講演会で講演発表を行いたい方は、下記要領にてお申し込み下さい。今回のご案内は、講演発表の申込みに関するものです。大会への参加全般に関するご案内は、学会誌4月号でお知らせします。

大会講演会の発表申込みはWEB投稿となります。

URLは<http://www.jsidre.or.jp/outline/zenkokutaikai/>です。

WEB投稿の受付期間は平成28年3月1日(火)～4月22日(金)とします。

1. 講演要領

- (1) 講演資格：代表発表者は、本学会会員に限り、講演申込み受付の際、会員番号を確認します。この機会に入会される場合は、学会ホームページの入会手続き(<http://www.jsidre.or.jp/guide/nyukai.htm>)をご参照願います。
- (2) 講演内容：学術講演会にふさわしい内容を備えたもので、原則として未発表のものを受け付けます。現場からの報告も歓迎します。
- (3) 講演部門：12部門あります。ただしプログラム編成上、希望部門が変更される場合があります。
- (4) 講演方法：原則として、1人(共同研究の場合は代表発表者)1課題とします。ただし、企画セッションと個人発表の各1件ずつの発表は認めます。個人発表者が複数の企画セッションで発表することは、プログラム編成上の

理由から認められません。

- (5) 発表形態：発表形態として「口頭発表」か「ポスター発表」のどちらかを投稿時に選んで下さい。①「口頭発表」：各部門の講演会場において、パソコンのプレゼンテーションソフト等を使って口頭で発表する形式。②「ポスター発表」：講演会場とは別のポスター展示会場において、会期中ポスターを展示するとともに、コアタイムと呼ばれる決められた時間帯にポスターを使って発表する形式。なお、プログラム編成上、やむを得ず発表形態が変更される場合があります。変更に応じられない方はあらかじめ投稿票の「変更可否」で「否」を選んで下さい。プログラムならびに発表形態、ポスターの大きさなどについては、学会ホームページで6月末までにお知らせします。
- (6) 講演時間：①口頭発表は1課題15分(質疑時間も含む)です。また、企画セッションは1セッション100分です。②ポスター発表では、会期中にコアタイムを確保します。
- (7) 要旨集：(2)にあてはまるすべての原稿をCD-ROM版講演要旨集に集録します。
- (8) 概要集：WEB投稿時の入力情報のうち、講演題目、発表者所属、氏名、講演概要(200字以内)を、概要集に集録します。200字を超えるものについては、文章を割愛させていただきます。

2. 投稿要領

- (1) WEBから新規登録を行い、講演原稿のアップロード、および申込料2,160円(税込)の納入をもって申込みとみなします。振替用紙には必ず『大会講演申込料』、氏名、所属を記載して下さい。年会費等をまとめて支払う場合

には内訳も記載して下さい。なお、送金後に発表を取り消されても、申込料の返金はできません。郵便振替用紙は、本誌巻末に綴じ込んであります。送金済みの振替の控えをPDF以外の画像データとして、WEB登録画面から送信して下さい。

- (2) 講演原稿は、図・表・写真などを含め1課題2ページとします。後述の「3.講演原稿の書き方」に従い、作成して下さい。
- (3) CD-ROM版講演要旨集の作成に伴い、講演原稿のファイルはPDF形式でのアップロードとします。
- (4) 講演原稿PDFファイルは、半角ローマ字表記の代表発表者名(姓名)として下さい(例:「nougyou tarou.pdf」)。

- ・ Acrobat Distiller または Acrobat PDF (アドビシステムズ社: Adobe Acrobat に付属) を使用し、すべてのフォントの埋込みをして変換したPDF (Portable Document Format) ファイルとして下さい。
- ・ PDF ファイルに、セキュリティ (文書パスワード、セキュリティパスワード、印刷、文書の変更、テキストとグラフィックス選択、注釈とフォームフィールドの追加と変更) の設定をしないようにして下さい。

- (5) 受付期間:平成28年3月1日(火)~4月22日(金)
(遅延・原稿差替えは不可)
- (6) 問合せ先

(公社) 農業農村工学会事務局大会担当 宇津木あて
〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3階
TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494
E-mail: zenkokutaikai@jsidre.or.jp
郵便振替: 00160-8-47993

加入者名: 公益社団法人農業農村工学会
銀行振込: みずほ銀行 新橋支店
普通預金 1167243

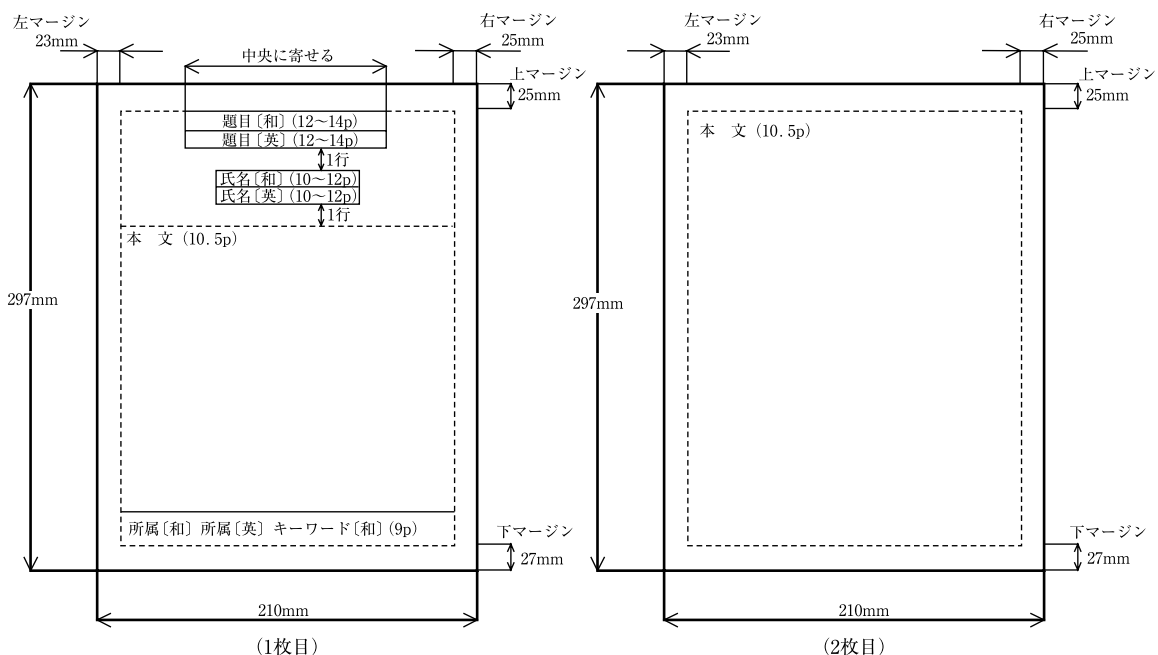
3. 講演原稿の書き方

- (1) 用紙サイズは、A4判(横210mm, 縦297mm)で、マージンは次のようにして下さい(下図参照)。
上: 25mm, 下: 27mm, 左: 23mm, 右: 25mm

(2) 書式

- ① 文字: 文字は、10.5ポイント以上として下さい。標準フォントとして、MS明朝、MSゴシック、平成明朝、平成ゴシックをお使い下さい。特殊なフォントは極力使わないで下さい。また、機種依存文字(①, ②, …I, II, …等)も使わないで下さい。上下左右のマージン内いっばいに、1行40字、1ページ40行、横書きを標準として印字して下さい。ワープロソフトによりこの組合せができない場合は、上下左右のマージン内に必ず収まるようにして下さい。
- ② 題目・所属・氏名・本文: 本文原稿の題目は、1ページ目の第1行と第2行に中央に寄せ、12~14ポイントで和英併記して下さい。講演者氏名は、第4行と第5行に中央に寄せ、10~12ポイントで和英併記して下さい。また、連名の場合には代表発表者の前に必ず○印をつけて下さい。

所属は、1ページ目の本文の下に横線を引き、その次の行に左に寄せ、9ポイントで1行に和英併記して下さい。所属に続けてキーワード〔和〕(キーワード表参照)を書いて下さい。なお、講演者および所属が複数ある場合は、講演者名の右上に*や**を付けて、講演者と所属が対応するようにして下さい。



キーワード表

1. 水 理	2. 水文・水質・気象	3. 土 壌 物 理	4. 土 質 力 学
流体力学一般 管・開水路流れ 河口・感潮域の水理 土砂水理 河川工学 水利システムの計測・管理・制御 水環境・水質 水利構造物 水理学的波動 数値流体力学 水産土木	水文統計 水収支・水循環 降雨特性 流出特性 洪水流出 長期流出 浸透流 地下水 蒸発・蒸発散 気象環境 気象災害 水資源開発・管理 降雪・融雪 水質 エネルギー循環	土壌の物理化学的性質 土壌構造 間隙構造 水分移動 溶質移動 保水性 土壌空気 レオロジー コロイド・粘土 土壌の熱的性質 凍上・凍結 土壌の生成・分類 土壌環境と植物根系 土壌微生物・土壌動物 特殊土壌	土の静力学的性質 土の動力学的性質 地下浸透・地下水流動 圧密・締固め 斜面安定・土圧・支持力 土構造物の解析 土構造物の地震時挙動 基礎工 土の分類 地盤の変形 安定処理・地盤改良 土構造
5. 応用力学	6. 材料・施工	7. 灌 漑 排 水	8. 農地造成・整備・保全
構造物の静力学的性質 構造物の動力学的性質 地震工学 構造物の設計手法 逆解析 岩盤力学 構造物・地盤等の連成問題 固体力学 構造力学 数値解析	コンクリート材料 コンクリートの性質 鉄筋コンクリート 特殊コンクリート 配合設計 二次製品 工法・施工 管理 施工機械 リサイクル 安全性 舗装 金属材料・瀝青材料・高分子材料 建設残土・廃棄物	計画手法 水田灌漑 畑地灌漑 灌漑施設 灌漑水温 水質制御 用水管理 地表排水 地下排水 排水施設 排水管理	農地造成 圃場整備 農地保全 土層改良 土壌改良 農地の汎用化 緑化 土壌侵食 干拓 農地保全施設 海岸保全施設 アグロフォレストリー 砂漠化 農地環境
9. 農 村 計 画	10. 環 境 保 全	11. 生 態 環 境	12. 農 業 土 木 教 育 ・ 農 業 情 報
産業経済計画 社会計画 土地利用計画 水利用計画・水利権 農用地計画・整備 集落計画 集落排水 道路計画・整備 生活施設 生産施設 農村振興 中山間地域 農村景観	環境保全 環境影響評価 水環境 大気 土壌 物質循環 地球環境	生態系 生物多様性 緑地 親水 ビオトープ 環境教育	農業土木カリキュラム 教育改善・FD 教育手法 技術者育成 継続教育 測量・GIS リモートセンシング IT インターネット

本文は、第7行から書き始めて下さい。2ページ目は第1行から書いて下さい。

- ③ 図・表・写真：本文とともに原稿用紙内に書き込み（あるいは貼り込み）、幅いっぱいにならない図・表・写真は右側に寄せ、左側の空白に本文を書くようにして

下さい。また、図表の表題にも英語を併記して下さい。

4. 著作権

要旨集と概要集に掲載された要旨等の著作権（著作財産権、コピーライト）は、(公社) 農業農村工学会に帰属します。また、講演の概要等は科学技術振興機構 (JST) に提供されます。

平成 28 年度大会講演会における「企画セッション」の募集について

平成 28 年度大会講演会 (8 月 30 日～9 月 1 日 (2 日は現地研修会)、ホテル法華クラブ仙台およびハーネル仙台) における企画セッションの「オーガナイザーならびにテーマ」を募集します。企画セッションの「企画」をお持ちの方はふるってご応募下さい。

企画セッションの利用としては、各種プロジェクトの成果発

表、特定テーマに関する最新情報の紹介等を想定していますが、会員の皆様の自由な発想で企画セッションを活用して下さい。

企画セッションのタイプは、オーガナイザーが事前に発表者を予定しておく「クローズド・タイプ」、発表者をオーガナイザーが公募する「オープン・タイプ」、のいずれかとなります。

企画の申込締切は 2 月 12 日 (金) です。お申込みに当たっ

て、下記事項を学会事務局 (zenkokutaiikai@jsidre.or.jp) まで電子メールにてお知らせ下さい。

- 1) 企画セッションのタイプ:「クローズド・タイプ」または「オープン・タイプ」
- 2) 企画セッションのテーマ
- 3) オーガナイザーの氏名,所属,連絡先電話・FAX・E-mail
- 4) 企画セッションの概要 (200 字以内)

なお、セッション数の関係上、応募されたすべての企画セッションが採用されるとは限りません。また類似した企画が提案された場合、調整をお願いすることがあります。企画の採否については、研究委員会よりお知らせします。

「企画セッション」は、特定のトピックについて、原則 100 分間のセッションを、オーガナイザーが責任を持って企画・運営するセッションです。セッション内の進行は、通常の発表スタイルはもちろん、パネルディスカッションや会場の聴衆を含めた討論方式等も可能です。ただし、セッションを単独の演者が独占する講演会のスタイルは認められません。各セッションとも、最低 2~3 名以上の発表があることが前提です。なお、セッションの演者は会員であることを要しませんが、大会参加費のお支払いは必要です。

企画セッションでの発表者は、企画セッションと個人発表の各 1 件ずつの発表は認めますが、個人発表者が複数の企画セッションで発表することは、プログラム編成上の理由から認められませんので各オーガナイザーは発表者選定に当たり、この点

に十分留意して下さい。

なお、企画セッションも要旨集に講演内容を掲載します。オーガナイザーにはセッションの原稿取りまとめをお願いします。また、各セッションは 100 分を予定していますが、プログラムのブロック割りのため、セッション時間が 100 分より多少前後する可能性があることをあらかじめご了承下さい。

各企画セッションの申込料は、講演題数にかかわらず一律 12,960 円 (税込) となります。

今後のスケジュールは、以下のとおりです。

1. オーガナイザーとセッション・テーマの募集締切
2月12日 (金)
2. 研究委員会で調整の後、応募テーマの採否の連絡
2月26日 (金) 頃
3. 「オープン・タイプ」セッション発表者の公募開始 (発表希望者は各オーガナイザーに直接申し込む)
3月11日 (金) 頃
4. 「オープン・タイプ」セッション発表者の公募締切
3月25日 (金)
5. セッションの講演要旨原稿の提出締切
4月22日 (金)

申込み・問合せ先

(公社) 農業農村工学会事務局大会担当 宇津木あて
〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 農業土木会館 3 階
TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494
E-mail : zenkokutaiikai@jsidre.or.jp

平成 28 年度大会講演会における「スチューデントセッション」の講演申込みについて

平成 28 年度大会講演会では、学生会員における講演発表の経験の場として、また全国の学生会員の学術交流をはかる場として、学生会員を対象にしたスチューデントセッションが設けられます。スチューデントセッションは、個々の企画セッションと同様に一般セッション (個人発表、ポスター発表) とは別のセッション枠での講演になります。

スチューデントセッションで講演発表を行いたい学生会員の方は、下記要領により、ふるってお申し込み下さい。

スチューデントセッションの講演申込みも WEB 投稿となります。

URL は <http://www.jsidre.or.jp/outline/zenkokutaiikai/> です。

WEB 投稿の受付期間は平成 28 年 3 月 1 日 (火) ~4 月 22 日 (金) とします。

1. 講演要領

- (1) 講演資格: 代表発表者は、本学会の学生会員もしくは、発表時点で学部を卒業あるいは大学院を修了後 1 年以内の会員に限ります。講演申込み受付の際、会員番号を確認します。この機会に入会される場合は、学会ホームページの入会手続き (<http://www.jsidre.or.jp/guide/>

nyukai.htm) をご参照願います。

- (2) 講演内容: スチューデントセッションでの講演内容は、一般セッションの講演のようにまとまったものでなく、博士論文、修士論文、卒業論文として取り組んでいる研究の途中結果や展望であってもかまいません。ただし、指導教員もしくは共著者がいる場合は、発表についての同意を要します。
- (3) 講演方法: スチューデントセッションでの発表は、1 人 (共同研究の場合は代表発表者) 1 課題とします。ただし、「一般セッション (個人発表、ポスター発表) あるいは企画セッション」と「スチューデントセッション」での各 1 件ずつの発表は認めます。
- (4) 発表形態: 発表形態は、口頭発表 (講演会場において、パソコンのプレゼンテーションソフト等を使って口頭で発表する形式) に限ります。
- (5) 講演時間: 口頭発表は 1 課題 5~7 分 (講演数により変更する場合があります) です。
- (6) 要旨集・概要集については「平成 28 年度農業農村工学会大会講演会の講演申込みについて 1. 講演要領」によります。

2. 投稿要領

投稿要領は「平成28年度農業農村工学会大会講演会の講演申込みについて 2. 投稿要領」によりますが、以下の2点が異なります。

- (1) スチューデントセッションにおける講演申込料は無料です。
- (2) 講演原稿は、図・表・写真等を含め1課題2ページ以内

で1ページでも可とします。

3. 問合せ先

(公社) 農業農村工学会事務局大会担当 宇津木あて
〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3階
TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494
E-mail: zenkokutakai@jsidre.or.jp

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000円 (何口でも可)

法人会員一口 50,000円 (何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行: みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替: 00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加下さい。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信して下さい。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信(事前にWeb利用登録が必要)

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

(例: 学会誌1月号掲載の問題は2月末日が解答期限)

5. 取得できる CPD 単位

10問正解で2cpdを、7~9問正解で1.5cpdを自動登録

(正解数6問以下の場合は CPD 単位の付与はされません。)

6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

平成29年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、平成29年発行の学会誌も引き続き皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。趣旨をご覧のうえ、ご応募下さい。

趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに

に発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成

要素となっているものもあります。人々の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずで、それらは、農村地域のみならず、都市の景観の中にも見つけることができるでしょう。

農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含み景観の美しさを再評価いただいて、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介下さい。

記

1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

2. 対象巻号 学会誌第 85 巻（平成 29 年 1～12 月号）

3. 写真の種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。（四つ切りワイド、A4 サイズも含みます）。なお、六つ切りは 203×254 mm、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。この場合の画像データ量は一点につき 20MB 以下とし、形式は JPEG のみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 秋季～冬季 平成 28 年 3 月 31 日

春季 平成 28 年 6 月 30 日

夏季 平成 28 年 9 月 30 日

※応募時、過去 1 年以内に撮影したものに限りま。

6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 85 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成 29 年度全国大会会場でパネル展示します。

8. 謝礼

採用作品には規定の賞金（1 点につき 3 万円）をお支払いします。また、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History（表紙写真由来）」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 使用权・著作権

採用作品の使用权および著作権は（公社）農業農村工学会に属します。

11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称（固有名称）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

公益社団法人 農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

☎ 03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 84 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ		要 旨 締 切 (A 4 判 1,500 字以内)
84 巻 1 号	人材育成の場を考える	公募終了
2 号	—	公募なし
3 号	大規模水田農業の未来を支える技術（仮）	公募なし
4 号	農村地域での総合的な地域排水対策の推進と想定被害情報の共有（仮）	公募終了
5 号	農業土木での環境配慮はなぜだか難しい（仮）	公募締切 1 月 15 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

す。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4
公益社団法人 農業農村工学会
農業農村工学会誌企画・編集委員会あて
TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494
E-mail: henshu@jsidre.or.jp

84巻5号テーマ「農業土木での環境配慮はなぜだか難しい」(仮)

農業土木にかかわる現場技術者、研究者・専門家、行政担当者、そして農家はこれまで環境配慮を試行錯誤しながら進め、二次的自然の保全・維持管理の成果を上げてきました。しかし、それでもまだいくつか改善できる点があり、その多くが“環境配慮の現場”で生じています。この改善のカギは、根源的な問いでもある「そもそも環境配慮とは誰にとってどうあるべきか」を整理することと、現場で必要とされる「土木工学的な技術解」(たとえば、環境配慮型の水路工法、水田魚道など)と

「社会解」(たとえば、環境再生から地域再生へのリフレーミング、農産品の環境ブランド化など)を導き出すことにあると思われれます。

本小特集では、平成26、27年度の農業農村工学会大会講演会の企画セッション「農業土木での環境配慮はなぜだか難しい」において議論したテーマに関わる課題を広く整理、分析した報文、難しさを感じている、あるいは難しさを乗り越えた事例などに関する報文を広く募集します。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、インパクトファクターが1.151 (2015年版)と高く、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)

- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

出版社: Springer-Japan 社

発行スケジュール: 年4回

購読料: 正会員・名誉会員 12,343 円

学生会員 (院生含む) 8,743 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込み下さい。

申込先: 農業農村工学会編集出版部 中村あて

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと

2015年1月から2017年12月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) の機関誌、国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」は、2016年1月に Vol.14, No.1 が発行されます。

本ジャーナルは2009年12月より、トムソン・ロイター社の SCIE (Science Citation Index Expanded) に収録されています。わが国においても学術誌の評価に、SCIE の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルは IF=1.151 (2015年版) と高い評価を得ております。

また、世界14カ国から Editor (23名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに

国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、年4回の発行としております。投稿者は農業農村工学会員で PWE 誌の購読者に限りませんが、投稿料、掲載料などを無料として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2015年1月から2017年12月までの編集事務局は韓国です。投稿先: オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) をご利用下さい。

編集事務局: Professor Dr. Jin-Yong CHOI

Deputy Director General, Institute of Green-Bio Science and Technology
Rural Water and Information Engineering Lab.
Rural Systems Engineering Program, College of Agriculture and Life Sciences, Seoul National University
1 Deahak-ro, Kwanak-gu, Seoul, Korea 151-742
TEL : + 82-2-880-4583 FAX : + 82-2-873-2087
E-mail : iamchoi@snu.ac.kr

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

編集体制

- ・ **Editor-in-Chief** : Dr. Masaru MIZOGUCHI (Japan)
Department of Global Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan
- ・ **Editors** 14 カ国から 23 名
- ・ **Editing Board** 26 名
- ・ **Chief Management Editors**
Dr. Jin-Yong CHOI

Institute of Green-Bio Science and Technology, Seoul National University, Korea

・ **Managing Editors**

Dr. Yoshiyuki SHINOGI

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University, Japan

Dr. Haruhiko HORINO

Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Japan

Dr. Kazunari FUKUMURA

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Japan

Dr. Yu-Pin LIN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Ming-Daw SU

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

出版社 : Springer-Japan 社

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員で PWE 誌の購読者であること。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

平成 27 年度関東支部技術研修シンポジウムの開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



このたび、関東支部では「地下水制御システムの機能と活用」と題した技術研修シンポジウムを企画いたしました。農業生産拡大の最大の制限要因は農地であり、限られた農地を最大限に活用することが、日本農業にとってきわめて重要であるのはいままでもありません。地下水制御システム、いわゆる FOEAS は、多毛作化や転作・輪作体系を含む水田の高度利用を実現する基幹技術として期待されています。今回の講演では、その理論から実践まで多面的な紹介がなされます。農政局や各県、土地改良事業団体連合会などから多数の参加をお待ちします。

1. **テーマ** 地下水制御システムの機能と活用
2. **日時** 平成 28 年 2 月 22 日 (月) 14 : 00 ~ 17 : 00
3. **場所** 宇都宮大学峰キャンパス
大学会館 (2F) 多目的ホール
http://www.utsunomiya-u.ac.jp/map/campus_map.php (図中⑮)
4. **アクセス** <http://www.utsunomiya-u.ac.jp/map/access.php#map-mine> (お車でお越しの場合、駐車場は会場付近にございます。)
5. **プログラム**

- 13 : 30 ~ 14 : 00 受付
- 14 : 00 ~ 14 : 10 開会
- 14 : 10 ~ 15 : 30 講演
「地下水制御システムの機能と活用」
農村工学研究所 原口暢朗・若杉晃介
- (15 : 30 ~ 15 : 50 休憩)
- 15 : 50 ~ 16 : 50 パネルトーク、質疑応答
- 16 : 50 ~ 17 : 00 閉会
- (17 : 00 ~ 18 : 30 情報交換会)

6. **参加費** 無料 (情報交換会は 2,500 円/人)
7. **参加申込み**
2 月 8 日 (月) までに、メールでお申し込み下さい。
メールの表題を「技術研修シンポジウムの参加申込」として、本文に所属・氏名、情報交換会参加の有無を記載して下さい。
8. **問合せ・申込先**
農業農村工学会関東支部事務局
〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町 350
宇都宮大学農学部農業環境工学科 大澤和敏
TEL&FAX : 028-649-5488
E-mail : osawa@cc.utsunomiya-u.ac.jp

平成 27 年度京都支部地方講習会・研修会の開催について (第 2 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



平成 27 年度農業農村工学会京都支部地方講習会・研修会を下記のとおり平成 28 年 2 月 10 日 (水) に開催します。

1. 日 時 平成 28 年 2 月 10 日 (水)

10:00~ 受付
11:00~12:00 地方講習会
13:00~16:30 支部研修会

2. 場 所 石川県教育会館

〒920-0805 石川県金沢市香林坊 1-2-40
TEL: 076-222-1241 FAX: 076-222-1242
<http://kyouiku-kaikan.wix.com/ishikawa#home/mainPage>

3. 参加申込方法

(1) 参加申込み

農業農村工学会・京都支部のホームページ内 (<http://www.jsidre.or.jp/shibu/>) の地方講習会・研修会参加申込みにアクセスし、参加申込書をダウンロードして下さい。参加申込書により所属ごとに取りまとめ、E-mail、FAX または郵送で下記 4. の事務局へお申し込み下さい。

(2) 参加申込期限 平成 28 年 1 月 29 日 (金)

(3) 参加費 会員: 2,000 円 非会員: 2,500 円

(4) 参加費の納入方法

銀行振込みか当日払いとなります。
どちらで納入するか、参加申込書へご記入願います。

(5) 参加費の振込先

銀行名: 北陸労働金庫 本店営業部
店番号: 452
口座番号: 2783022
名義人: 農業土木学会京都支部北陸事務局
(ノウギョウドボクガツカイ)

※ 振込手数料は、各自にてご負担願います。また、振込元を確認するため、所属、氏名などをご記入下さい。なお、振込み後は参加費の返還には応じられませんのでご了承下さい。

4. 問合せ先

北陸農政局農村振興部設計課 河淵, 今川
〒920-8566 金沢市広坂 2-2-60
TEL: 076-263-2161 FAX: 076-234-8051
E-mail: teturo_kawabuchi@hokuriku.maff.go.jp
kazuhiro_imakawa@hokuriku.maff.go.jp

農業農村整備政策研究部会第 3 回研究集会の開催と発表者の募集について (第 2 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農業農村整備政策研究部会は、農業農村整備政策を進化・発展させるため、行政関係者と研究者等が日々の成果を発表する研究集会を年 1 回開催することとしております。ついては、平成 28 年度予算の政府案が決まる時期に、下記の要領で、第 3 回の研究集会を開催することといたしました。

発表する内容は部会の目的に即していれば何でも構いません。たとえば、行政関係者で言えば、予算制度の創設など政策立案過程の業務体験を考察したもの、今後の政策のあり方や政策の組合せに対する意見、政策を策定する過程の手法や将来の政策につながる調査結果などが考えられます。研究者などの方々は、現行の政策の評価、さまざまな政策の比較分析、新たな政策の提案に向けた研究成果、政策に役立つ手法・調査結果などが考えられます。そのほかにも、行政と研究の連携事例などさまざまなテーマが考えられます。

目まぐるしく移り変わるわが国経済社会に対応した農業農村整備政策の推進は、わが国農業の基盤強化と豊かな農村の実現にとって急務です。研究者や行政関係者などの皆様が是非この研究集会に奮って参加していただき、農業農村整備政策の進化・発展に寄与していただければ幸いです。なお、後日、第 3 回研究集会のプログラムをお伝えしますので、発表されない方も是非研究集会にご参加下さい。

1. 開催日時 平成 28 年 1 月 25 日 (月) 15:00~18:00

2. 場 所 東京大学農学部 2 号館 1 階 121 号室
〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

3. 発表募集人数 6 名程度

4. 発表時間 1 人 20 分 (発表 15 分、質疑 5 分)
ただし応募者の人数により変更あり。

5. 発表方法 パワーポイントを利用する。

6. 電子ジャーナルへの掲載

発表した内容は「農業農村整備政策研究 (電子ジャーナル)」に掲載しますので、「農業農村整備政策研究 (電子ジャーナル)」投稿要項 (部会ホームページ参照) に従い原稿を作成し、発表後 14 日以内に部会編集委員会事務局まで送付して下さい。

7. 募集締切 平成 28 年 1 月 8 日 (金)

8. 研究集会事務局 (発表および参加申込み、問合せ)

東京大学大学院農学生命科学研究科
水利環境工学研究室 飯田俊彰
TEL&FAX: 03-5841-5347
E-mail: atiida@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp
農業農村整備政策研究部会ホームページ:
<http://www.jsidre.or.jp/bukai/seisaku/>

第 53 回材料施工研究部会シンポジウムの開催について (第 2 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 主催 農業農村工学会材料施工研究部会
2. テーマ 農業水利施設の維持管理における非破壊検査の現状と課題
3. 開催 平成 28 年 1 月 29 日 (金)
4. 場所 三重県総合文化センター 多目的ホール
〒514-0061 三重県津市一身田上津部田 1234
<http://www.center-mie.or.jp/>
5. プログラム
 - 9:50~10:05 開会挨拶
材料施工研究部会長・三重大学生物資源学研究所 石黒 覚
三重県農林水産部次長 福岡重榮
東海農政局農村振興部設計課長 長山政道
 - 10:10~10:40 材料施工研究部会 研究奨励賞授与式
 - 10:50~11:50 講演発表 1<基調講演>
これからの維持管理と非破壊検査の役割
農村工学研究所施設工学研究領域 中嶋 勇
 - 11:50~12:50 (昼食)
 - 12:50~16:00 講演発表 2<一般講演>
 - (1) 中勢用水地区安濃ダムにおける堆砂の現状と課題
東海農政局木曾川水系土地改良調査管理事務所 保全整備課 二村弘喜
 - (2) 農業水利施設の水理・水利用実態に起因する鋼矢板材の腐食と補修・補強対策
新潟大学自然科学系 鈴木哲也
 - (3) 潤滑剤の評価による農業用ポンプ設備の機能診断
農村工学研究所 國枝 正
 - (休憩)
 - (4) 凍害が生じているコンクリート開水路の診断と対策工法
鳥取大学農学部 緒方英彦
 - (5) 農業用ダムにおけるレベル 2 地震動耐震性能照査について (調査・解析の事例)
(株) 三祐コンサルタンツ総合技術第 1 部 渡部大輔
 - (6) 空中超音波法によるコンクリート水路の表面粗さの測定
三重大学生物資源学研究所 岡島賢治
6. 参加費 4,000 円
7. 申込み
以下の項目をご記入の上、FAX もしくは E-mail にてお申し込み下さい。その際、標題欄には「材料施工研究部会シンポジウムへの参加申込」と明記して下さい。
①参加者氏名, ②所属機関名, ③所在地, ④ TEL, FAX, E-mail アドレス, ⑤弁当 (代金¥1,000) 予約注文希望の有・無 (なお、三重県総合文化センター内にはレストラン、喫茶、売店があります), ⑥ CPD 番号 (登録希望の方)
8. 申込み・問合せ先
〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577
三重大学生物資源学研究所共生環境学科
材料施工研究部会事務局
申込受付担当: 岡島賢治
TEL: 059-231-9586 FAX: 059-231-9591
E-mail: okajima@bio.mie-u.ac.jp
9. 申込締切 平成 28 年 1 月 15 日 (金)
10. 宿泊 各自で手配して下さいますようお願いいたします。

平成 27 年度農業水利研究部会研究集会の開催について (第 2 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



- わが国の農村地域では、今後、農地集積が加速化することによって大規模かつ少数の担い手が地域の水利利用の太宗を占めた場合、より地域の営農を重視した水管理システムへの転換や、これを支える持続可能な水管理体制の再編等を行うなど、新たな農業水利システムの構築が必要とされています。このような情勢にかんがみ、当部会では、供給重視から営農重視の水管理への転換ならびに持続可能な水管理体制の構築のあり方に焦点を当て研究集会を開催し検討することにしましたので、ここにご案内いたします。なお、参加はどなたでも自由です。
1. 日時 平成 28 年 2 月 6 日 (土) 13:00~17:00
 2. 場所 東京都港区新橋「航空会館 504 会議室」
東京都港区新橋 1-18-1 TEL: 03-3501-1272
交通機関: JR 新橋駅日比谷口・地下鉄東京メトロ
銀座線・都営浅草線⑦出口より徒歩 6 分、地下鉄都営三田線内幸町駅 A2 出口より徒歩 1 分
 3. テーマ 農業用水の供給構造の変化に対応した適正水管理システムの構築
 4. 講演者および題目
「農業水利施設の管理体制の現状」
農林水産省農村振興局整備部水資源課課長補佐 東 崇史
「低平地における配水槽による低圧パイプラインの導入」
新潟県新潟地域振興局巻農業振興部計画専門員 澤田 修
「ICT を用いた広域水管理システムの構築と適正水配分」
静岡県磐田東部土地改良区事務局長 長島康男
静岡県磐田東部土地改良区 村松幹郎
 5. 参加費 500 円

6. 参加申込み・問合せ先

農業水利研究部会事務局

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1

東京農業大学地域環境科学部生産環境工学科

地域資源利用工学研究室 (担当: 中村好男)

TEL: 03-5477-2337 FAX: 03-5477-2620

E-mail: nyoshi@nodai.ac.jp

平成 28 年度資源循環研究部会研究発表会の発表者募集について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



資源循環研究部会では、農村における水循環やバイオマス利活用に係る技術の発展および技術者・研究者等の学術交流を目的として、研究発表会を開催することとしています。

今回の研究発表会は、バイオマスエキスポの開催に併せて下記のとおり行います。つきましては、水循環やバイオマス利活用に係る最新の調査・研究成果の発表および事例報告を募りますので、是非、この機会をご活用いただきたく、皆様のご応募をお待ちしています。

1. 開催日 平成 28 年 6 月 16 日 (木) 13:00~16:30 (予定)

2. 会場 東京ビッグサイト (バイオマスエキスポの開催に併せて実施。)

3. 内容 研究発表および事例報告

4. 研究発表・事例報告の要領

(1) 資格

農業農村工学会資源循環研究部会員とします。

(今回の発表・報告に併せた入会 (入会費・年会費無料) ができます。)

(2) 内容

①研究発表: 調査・研究の最新成果 (5 課題程度)

論文作成: 研究発表会当日、論文集を作成し配布します。

表彰: 優秀な論文については、部会長賞を与え、発表会場で表彰します。

その他: 研究発表にかかる論文については査読委員会にて査読を行い、場合によっては加筆修正をお願いする場合があります。

②事例報告: 先駆的な取り組み事例 (2 課題程度)

その他: 事例報告にかかる論文については査読委員会による査読を行いませんが、事務局などの判断により修正をお願いする場合があります。

(3) 発表方法

①個人発表とし、1 人 (共同研究の場合は口頭発表者) 1 課題とします。

②発表を補助する映像機器として、パソコンおよびプロジェクターを用意します。

③研究発表の発表時間は、25 分程度/人 (発表 20 分、質疑応答 5 分程度) の予定です。

5. 申込方法

(1) 発表申込み

①申込用紙の提出をもって申込みとみなします。

申込用紙は資源循環研究部会ホームページよりダウンロードして下さい。

②原則として電子メールにて受け付けます。

③締切は平成 28 年 2 月 19 日 (金) とします。

④発表の採否は事務局で決定し、応募者へ 2 月 26 日 (金) までに通知する予定です。

留意事項: 発表申込み内容が、本研究部会の趣旨や資源循環研究部会論文集原稿作成要領の基本方針に照らして、相応しくないと判断される場合には、お断りする場合があります。

(2) 投稿

①研究発表が決定した応募者には発表論文を作成していただきます。論文集原稿作成要領を資源循環研究部会ホームページに掲載していますのでご確認願います。また、事例報告が決定した応募者には報告レポートを作成していただきます (様式等方法については別途ご連絡します)。

②投稿締切は平成 28 年 4 月 4 日 (月) とします。

(3) 申込み・問合せ先

農業農村工学会資源循環研究部会

事務局: (一社) 地域環境資源センター

集落排水部企画調整班 (担当: 大森, 大瀧)

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

TEL: 03-3432-6282 FAX: 03-3432-0743

E-mail: sigen@jarus.or.jp

資源循環研究部会ホームページ:

<http://www.jarus.or.jp/sigen/>

国際かんがい排水委員会 (ICID) 第 2 回世界かんがいフォーラムにおける発表論文の募集について

2016 年 11 月 6 日から 12 日にかけて、タイ王国・チェンマイにおいて、ICID 第 2 回世界かんがいフォーラム及び第 67 回国際執行理事会が開催されます。

ICID 日本国内委員会は、下記の要領に従い、上記会議における発表論文を募集いたします。

(詳細は <http://www.worldirrigationforum.net/> でもご覧い

ただけます。

投稿をご希望の方は、論文要旨 (Abstract) を電子ファイルにてご提出下さい。同時に、日本語での論文要旨も作成し、ご提出下さい (提出先: jncid@maff.go.jp)。お送りいただく論文要旨を日本国内委員会にて査読させていただいた後、ICID タイ国内委員会へご自身で提出いただく流れとなります。(インターネットからのオンライン投稿: <https://www.easychair.org/conferences/?conf=fwif2016> にてアカウント登録を行った後、オンラインで投稿します。)

1. 会議開催概要

開催期間: 2016年11月6日(日)~12日(土)

開催場所: タイ王国・チェンマイ

2. 募集トピック

募集トピックは以下のとおりです。各トピックの詳細は、下記 URL に記載される予定です。

<http://www.worldirrigationforum.net/>

第2回世界灌漑フォーラムテーマ: Water management in a changing world: Role of irrigation for sustainable food production

<Sub-theme1: Key issues of irrigation and drainage in balancing water, food, energy and ecology>

1.1 Role and efforts of the irrigation sector with respect to the World water issues

1.2 Drivers of policy, institutional, organizational and financial innovations for better stakeholder participation in irrigation and drainage services

1.3 Roles of water users, private sectors, government organizations and civil societies in management, operation and maintenance of irrigation and drainage systems

1.4 Innovations and extension under new irrigation and drainage performance and services requirements for national water and food security

1.5 Role of irrigation and drainage for forest management

<Sub-theme2: Management of climatic extremes with focus on floods and droughts>

2.1 Adaptation of design and operation criteria for irrigation and drainage schemes in light of climate change impacts

2.2 Managing impacts of extreme events - floods and droughts

2.3 Dealing with climate change impacts on flood security

2.4 Regional water management in Asean countries and international river basins

<Sub-theme3: Key and smart actions to alleviate hunger and poverty through irrigation and drainage>

3.1 Water and climate smart approaches for sustainable smallholder agriculture

3.2 Financing mechanisms for development and management of irrigation and drainage projects

3.3 Adaptation measures for rural water management for water and food security

3. 使用言語 英語

4. 提出期日 2016年2月15日(月)

5. 提出先 jncid@maff.go.jp

6. 作成要領

(1) Abstract として 300 語以下で作成。

(2) ページ冒頭に論文タイトル, 著者・共著者名を記載。同ページ下部に所属, 住所, 電話番号, FAX 番号, E-mail アドレスを記載。

(3) 日本国内委員会に提出の際は、日本語での論文要旨を別添付。

提出いただいた論文要旨は、日本国内委員会で内容を確認し、その結果を2月22日(月)までにご連絡いたします。

7. 今後の予定

・査読用論文要旨提出期限 (ICID 日本国内委員会あて)
2016年2月15日(月)

・査読結果通知期限 2016年2月22日(月)

・論文要旨提出期限 (ICID タイ国内委員会あて)
2016年2月28日(日)

・論文要旨採否の通知期限 (ICID タイ国内委員会より)
2016年4月15日(金)

・Full Paper 提出期限 (ICID タイ国内委員会あて)
2016年6月15日(水)

・著者への通知期限 (ICID タイ国内委員会より)
2016年8月15日(月)

8. 問合せ先

農林水産省農村振興局整備部設計課海外土地改良技術室内

ICID 日本国内委員会事務局 担当: 宇野

TEL: 03-3595-6339 FAX: 03-5511-8251

E-mail: jncid@maff.go.jp

第2回理論応用力学シンポジウムの開催について

力学に関する最も権威ある国際組織 IUTAM の開催する国際会議の国内版として「理論応用力学講演会」が長年にわたっ

て開催され、力学分野の研究の活性化に貢献してきました。理論応用力学研究をより一層充実させるために、力学分野の先端

的研究成果に関する最新動向を共有するとともに、将来への展望について議論することを目的として、平成26年3月17日に公開シンポジウム「第1回理論応用力学シンポジウム」が開催されました。今回は、その第2回として「力学の深化・統合化および展開」をテーマとして理論応用力学シンポジウムを開催するものです。

1. 主催 日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同力学基盤工学分科会

共催 農業農村工学会ほか23学協会（予定）

2. 日時 平成28年3月8日（火）13:00~17:00

3. 場所 日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）（東京メトロ千代田線「乃木坂駅」5番出口、徒歩1分）

4. 参加費 無料（事前申込み不要、直接会場にお越し下さい。）

5. プログラム

司会：高木 周（東京大学大学院工学系研究科教授）

13:00 開会の挨拶

明治大学研究・知財戦略機構特任教授 宮内敏雄

13:10 基調講演（1）「フロンティアは何処だ？」

北村隆行（京都大学大学院工学研究科教授）

13:50 招待講演（1）「固体の共鳴振動理論の深化と展開」

大阪大学大学院工学研究科准教授 垂水竜一

14:20 招待講演（2）「超音波照射下の粘弾性体における気泡力学の基礎とその医療応用」

慶応義塾大学理工学部専任講師 安藤景太

14:50~15:10 休憩

15:10 基調講演（2）「メーキャップ化粧品開発の高度化をめざす光伝播解析」

芝浦工業大学工学部工学部長・教授 山田 純

15:50 招待講演（3）「フォノン輸送の科学と応用」

東京大学大学院工学系研究科准教授 塩見淳一郎

16:20 招待講演（4）「電気化学を用いた再生医療のための立体臓器の作製」

横浜国立大学大学院工学研究院准教授 福田淳二

16:50 閉会の挨拶

東京理科大学工学部教授 藤井孝蔵

6. 問合せ先

宮内敏雄（明治大学研究・知財戦略機構特任教授）

E-mail: tmiyauch@mes.titech.ac.jp